

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぬくもりすべいす「虹っ子」		
○保護者評価実施期間	令和7年10月14日	～	令和7年11月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年10月14日	～	令和7年11月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの「できること」「好きなこと」「取り組みそうなこと」を丁寧に把握し、一人ひとりの特性に応じた個別支援計画を立案している。プログラムや課題内容についても、本人の理解度や興味を基に組み立てていくことで、子どもたちが意欲的に取り組める支援となっている。	個々に合わせたスケジュールの活用(トランジションを取り入れる等)を行うことで、次に何をすればいいのかを提示し、「言われなくても自分でできた」を感じることができるようになっている。 また、毎回、本人の強みを活かした課題を取り入れることで、「やりたい」「できた」を感じることができるよう課題設定を行っている。	虹っ子で取り組んでいる活動が、生活や集団場面でも活かされるように意識した課題設定を行っている。 また、職員間で課題の内容を共有する時間を設けたり、実践研修を取り入れたりすることで、支援の質を高めていく。
2	毎回、保護者に療育の様子を見ていただき、振り返りの時間を設けることで、当日の課題の取り組みや日々の様子を丁寧に共有している。また、保護者と共に考える姿勢【協働療育】を大切に、悩みや困りごとが少しでも軽減されるよう努めている。	保護者への対応にあたっては、課題の内容だけでなく、きょうだい児や保護者自身の思い・悩みにも耳を傾け、共感的に話を伺うよう努めている。必要に応じて支援者の立場から助言を行い、状況に応じた柔軟な対応を心がけている。また、情報提供に際しては曖昧な返答を避け、十分な情報収集を行ったうえで、正確かつ信頼性のあるフィードバックを提供するよう努めている。	普段の面談だけではなく、就学準備の会や保護者会で情報提供をする機会を設ける。 また、団体で行っている発達障害児・者支援セミナーやおしゃべりサロンへの参加を促し、学べる機会や情報提供の場として活用してもらう。
3	TEACCHプログラムに学び、スケジュールの提示、環境調整など、発達特性に応じた支援方法を取り入れている。	興味のあるものを課題に取り入れ、子どもが集中しやすい時間やタイミングを考慮してスケジュールを構成している。また、感覚過敏のある子どもには音・光・触感への配慮を行い、パーテーションで空間を区切る、立ち位置を示すなどの工夫を施し、安心して過ごせる環境を整えている。	スケジュールの順番、内容、環境、働きかけなどを見直ししながら、常に再構造化を図る。また、保護者より日々の様子を聞き取ることで、本人のやりたいこと、できそうなことを保護者、本人と一緒に考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動課題や来所人数によっては、部屋が狭く感じてしまうことがある。	運動課題等場所を広く利用したいときには、限られたスペースで行わなければならないため狭く感じてしまう。 遊びでは、時間帯や来所人数により狭く感じてしまうことがある。	運動課題等広く場所を利用する際は、同じ時間帯の職員と打合せを行い課題の順番や空いている空間を有効に使うようにする。また、遊びの場面では保護者との面談時間のローテーションをうまく組み、部屋に大人の人数が増えすぎないようにする。マット等を敷き、各々の遊ぶスペースが視覚的に分かりやすくなるような工夫を行う。
2	非常時等の対応での、マニュアルの周知・説明、定期的な避難訓練の実施が行われているのが、知らない人が多くいた。	通信やSNS等でお知らせしているが、周知が行き届いていない。	避難訓練は1日で終わらせず、共通課題のように週単位で継続的に取り組む。団体が発行している会報誌やSNS等を利用して多くの人に知ってもらえるよう、周知の機会を積極的に作っていく。
3	保育所、幼稚園等との交流や地域で他の子どもと活動する機会、きょうだい児向けのイベントの開催を催す機会がない。	他児との交流やきょうだい児同士の関りを望まれていない方、子どもの特性を受け止めている段階の方もいるため、機会を設けるのは難しい状況にある。	地域の子どもたちとの交流は難しいものの、来所する子ども同士が関わり合う機会を増やしていくため、共通課題や遊びを通してきっかけをつくっていく働きかけを行う。また、きょうだい児も安心して来所できるよう、関わり方や受け入れ態勢を整えていく。